

第1回 広島西飛行場跡地活用検討会 議事要旨

1 検討会名称

第1回広島西飛行場跡地活用検討会

2 開催日時

平成24年11月26日（月）午後2時～午後3時35分

3 開催場所

広島市役所 本庁舎14階 第7会議室

4 出席者

構成員10人 全員出席

（参考）事務局

広島県：地域振興部長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員

広島市：都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

5 議題

- (1) 座長の選出
- (2) 広島西飛行場跡地の現況・課題について
- (3) 跡地活用の基本的な考え方について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

7人

8 検討会資料名

次第

名簿

資料1－1 広島西飛行場跡地活用検討会開催要綱

資料1－2 広島西飛行場跡地活用検討会の公開に関する取扱要領（案）

資料2 第1回広島西飛行場跡地活用検討会資料

参考資料

9 各出席者の発言の要旨

事務局

検討会の開催に当たり、開催趣旨を説明する。

今月15日、広島ヘリポートが供用を開始した。広島西飛行場のヘリポート化に伴い発生する広大な跡地は、広島市のまちづくりだけでなく、県内更には、中四国地方全域の発展にまで影響を与えるほどの高いポテンシャルを有した土地である。その有効活用に向け、広島県と広島市が協力して取り組むことが必要である。

跡地の活用については、本年度末を目途に、ビジョンを取りまとめたいと考えており、跡地活用の基本コンセプトや主要な導入機能等について、委員の皆様から忌たんのない意見をいただき、より良いビジョンとしていきたいと考えている。

事務局

議題(1)「座長の選出」についてである。

資料1-1、広島西飛行場跡地活用検討会開催要綱において、検討会に、構成員の互選により座長1人を置くと規定している。座長となる方を推薦いただきたい。

松浦（靖）委員

委員長・座長としての経験が豊富で、地域政策にも精通されている戸田委員にお願いしたい。

事務局

戸田委員を座長にという推薦があったがどうか。

（拍手、異議なし、との声）

事務局

それでは、戸田委員に座長をお願いしたい。戸田座長に一言お願いしたい。

戸田座長

恐縮だが、受けさせていただく。非常に重要な会議と認識している。

委員の皆さんはそれぞれ思いを持っていると思うが、その意見を交換し、集約していくことが大事である。この跡地は、将来に対して、また広い範囲で影響を及ぼす場所である。我々はどのように議論すべきかという視点に立つと、少なくとも広島都市圏、中四国全域を視野に置く必要がある。しかも、子や孫、将来に対して一定の責任があると認識している。大局をもって議論をいただきたい。

とは言っても、夢ばかり語るのはどうか。将来に対する見通しが必ずしも明確でない時代である。しかし、このまま放置してよいのかというと、広島経済・社会を考えるとそうはいかない。今何をすべきかを考え、それを着実に進めていくことが重要である。何ができるかという面についても大事にしたい。

改めて言うと、我々委員の考えが1点目。我々委員がその考えを述べるに当たって、広くまた将来を見通して大局に立つということが2点目。そして、実行可能性が3点目。その3点を大切にして、意見

交換や検討を進めていければと思う。

事務局

それでは、ここからは、戸田座長に議事の進行をお願いしたい。

戸田座長

それでは、ここからは、私が進行する。

議事に入る前に、本検討会の進め方について確認したい。

事務局

今後は、月 1 回程度のペースで本検討会を開催するとともに、素案を公表し、県民・市民の意見を募集した上で、本年度末を目途に、このビジョンを取りまとめたい。

本日の第 1 回検討会では、跡地の現況・課題について事務局から報告するとともに、跡地活用の基本的な考え方について意見を交換していただきたい。

戸田座長

事務局の説明に対して質問があればいただきたい。

(発言なし)

戸田座長

進め方については、了承いただいたこととする。

続いて、資料 1－2、「広島西飛行場跡地活用検討会の公開についての取扱要領（案）」が事務局から用意されている。説明をお願いする。

事務局

本検討会は、要綱において、原則として公開で行うこととしている。その公開に関する取扱いを定めようとするものである。了承いただけたら、本日付けで施行したい。

戸田座長

何か気付きがあれば伺いたい。

(発言なし)

戸田座長

ないようなので、了承いただいたこととする。

それでは、議題(2)「広島西飛行場跡地の現況・課題について」の資料の説明をお願いする。

事務局

(資料 2 の 1 ～ 8 ページに沿って説明)

戸田座長

それでは、質問・意見をいただきたい。どういう角度からでも結構である。

松浦（靖）委員

資料2の4ページ。マリーナホップと宮島を結ぶ高速船は、1か月程度の試行と聞いているが、資料では恒常的な感じがする。まだどうなるかわかっていないのではないか。

事務局

12月以降はまだ決まっていない。

松浦（靖）委員

周遊のバリエーションが多くなり良いと思うが、試行的ならば、誤解がないような表現にされた方が。

秋山委員

（観音）新町の町内会長をしている。地図を見てもらえばわかるが、私たちの地区は広い。だが、とにかくただ広いだけ。総合グラウンドがあり、空港があり、三菱重工^{びし}があり、私は新町で商店会の会長もしているが、人口が非常に少なくなっている。なるべく早くここを整備してもらい、人口も増やして、我々の商業が成り立つように推進してほしい。

これは、例えば、あと5年ぐらいとか、10年ぐらいとかという予定があるか。

事務局

今まさにビジョンを取りまとめようと議論を開始したところである。そのビジョンを踏まえて、今後、工程を作っていかなければならないと思うが、今の段階では、まだビジョンそのものがないため、何年先ということを申し上げるのは難しい。

福田委員

飛行場の太田川放水路側に、道が1本あるが、そこの扱いを教えてほしい。

事務局

太田川放水路の河川管理道であり、跡地ではない。ここでは、高潮堤防の整備が予定されていると聞いている。

戸田座長

高潮堤防の整備予定について、もう少し説明してほしい。

事務局

高潮堤防について、（河川管理）計画では、幅を広げる予定がある。

戸田座長

他にないか。

少しわかりにくい点として、3ページの南道路がある。そこのランプが、西向き、東向きのオン、オ

フなどの記載があるが、もう少し詳しくわかりやすく説明してほしい。

事務局

(資料2の3ページに沿って説明)

戸田座長

跡地がある観音地区から、東西の行き来に問題がないことが確認できた。

福田委員

自転車や歩行者など、車でない方も同じと考えてよいか。

事務局

東方面の一般街路、西方面の高架、ともに歩道の整備が予定されている。

福田委員

では、商工センターからも歩道で渡って来られるのか。

事務局

歩行者と自転車は、歩道橋を通って、商工センター側へ渡ることができる。

秋山委員

この跡地につながる道路にはクランクがあり、何か催し物があるとすぐ混雑する。三菱重工の中をまっすぐ通る都市計画道路があると聞いているが、できるのはいつごろの話か。

事務局

この都市計画道路は、三菱重工の工場用地の中を貫いているため、三菱重工の協力が無いとできない。計画は昭和20年代からあるが、今はまだ事業化の見込みはない箇所である。

秋山委員

ということは、例えばここに何かができたとしても、従来どおりのこのクランクを通って、バスが離合するのも難しいような所を通って、出入りしなければならないのか。

事務局

現在片側1車線しかないという現状については、何がここへ来ようが、改善していかなければならないという認識は持っており、8ページに課題として掲げている。

実際にどういう形で拡幅できるかは、この跡地をどう使っていくかということとも連動するため、今の段階で具体的に言えないが、跡地の活用にあたって大きな課題の一つだと考えている。

秋山委員

これからこういう大きな所をやる場合には、まず道路を先に作ってほしい。マリーナホップが開店した時も、自動車が町内に入り込むなど混雑した。もしこれをする場合には、必ず道路を拡幅して、東西

南北へスムーズに車が動けるよう考えてほしい。

戸田座長

大切な意見だと思う。大規模な施設等を作る場合、アクセスというものは前提である。

跡地利用の中で、跡地の一部を拡張用地にすることも可能か。

事務局

可能だと思う。ただ、跡地活用のビジョンが今からの議論なので、この道路についても議論をいただければと思っている。

戸田座長

それでは、議題の(3)に入る。

議題の(3)は、跡地活用の基本的な考え方である。その説明をお願いする。

事務局

資料２の９ページ「３ 跡地活用の基本的な考え方」である。

この検討会では、この図の一番右側にある「跡地活用の方向性」として、活用の基本コンセプト及び主要な導入機能などを議論していただきたいと考えている。

議論に当たっては、跡地の地域特性や課題等を踏まえる必要があり、上位計画や関連計画も念頭に置く必要がある。更に、この広島都市圏における都市機能の課題と、旧広島市民球場跡地等との機能分担も考慮する必要がある。

それらを踏まえた上で、活用の基本コンセプト及び主要な導入機能などを議論していただきたい。

参考資料の１１ページは、本年９月１２日開催の広島市議会都市活力向上対策特別委員会において、広島市が説明した「大規模未利用地への都市機能配置案」である。

本市の目指すべき「まち」の姿と、その実現に向けた基本的な考え方として昨年１２月末に「市政推進に当たっての基本コンセプト」を公表した。この中で、少子・高齢化、低成長経済といった状況下における都市経営の基本は、都市機能の拡散の抑制と、その適切な配置による集約型都市構造の形成を図ることとしている。具体的には、都心においては、活力と求心力の源となるような機能を集中し、充実強化を図る一方、それ以外の地域においては、地域ごとの特性や将来性等を踏まえつつ、既に集積した機能のうち、生かすべきものを選択し、強化する。そして、これらを有機的に連携させることにより、本市全体としての都市機能を強化し、活力とにぎわいを生み出す基盤とする。このような考えの下、それぞれの大規模未利用地に配置する主たる機能の大きな方向性を整理している。

広島西飛行場跡地については、旧広島市民球場跡地委員会において、「アミューズメント機能」と「スポーツ・遊戯機能」については、観音マリーナ、マリーナホップなどの既存の関連施設や広島南道路もあることから、広島西飛行場跡地が良いのではないかという意見があり、このような意見を踏まえ、「スポーツ・レクリエーション機能」を配置している。

また、この跡地の大きな特徴の一つにヘリポートがある。このヘリポートは、国の定めた要綱や本市が県内各市町と締結した協定等に基づく被災都市への支援活動の拠点となっている。市民の防災意識が高まる中で、こうしたヘリポートの機能を有していることから、この既存機能を「広域防災機能」として位置付けたものである。

更に、広島西飛行場跡地は、広大な面積を有しているため、様々な都市機能を導入することが可能な

土地である。まちの活力が重要となる中で、企業誘致に適したスペースを確保できるため、「新たな雇用を創出する機能」を配置している。

跡地活用の基本的な考え方について議論をいただく上でのたたき台の一つとしていただければと考えている。

戸田座長

それでは、資料2の9ページと参考資料について、質問・意見をいただきたい。

谷村委員

冒頭に今後の進め方等について説明があった。戸田座長から子や孫の将来にも責任のある大事なことだという話もあったので責任重大なのだが、このビジョンを作るのが年度末までということで、非常に短期間に仕上げなければならない。どの程度のビジョンにするのか。方向性をいくつか提示する程度のもなのか。途中で素案を公表し市民意見を募集するとなると、非常に忙しいと思う。具体案やスケジュールまで掘り下げられるのかという点に少し懸念があるので、大体の考えを聞かせてほしい。これが1点。

それから、議論の前提として、先ほどの河川管理道の部分を除き、着色してある部分は全部、フリーハンドで議論しようということなのか。

今日は中国地方商工会議所連合会の立場だが、広島商工会議所は、以前、将来の航空機能を残すことはできないかという意見をし、市民の理解を得ることも難しいので困難だというきちんとした回答をいただいているので、それを蒸し返すつもりはないが、議論の前提として、例えば今のヘリポートなどは所与の物として議論を展開していこうということなのか、という確認が1点。

それから、一番最後に説明のあった都市機能の配置案。大規模未利用地がいくつかあるが、並行して議論されている最中のものがあるので、それとの連携について。こちらの方では今こういうふうによりつつあるということもしん酌しながら、ここでの議論をしていく必要があるのかどうか。3点確認したい。

戸田座長

3点質問があった。1点目は、3月末までにどの程度までの検討を行うのか。構想、ビジョン、と言っても非常に幅がある。基本計画なり、実施計画には行かないと思うが、基本的な方向、ということなのか。2点目は、検討に当たっての前提条件、制約条件をどこまで考えるべきか。言い換えれば、どの程度までフリーハンドでの検討ができるのか。3点目は、他の跡地の検討との関係をいかに調整するか。それをどのように考えているのか。この3点である。

事務局

まず1点目、どの程度までまとめるのかということだが、谷村委員指摘のとおり、今日を含めて僅か5回の会議の予定である。細部にわたった計画を作っていくのはなかなか困難だと考えており、大きな方向性、導入機能について議論していただき、方向性を取りまとめていただければと考えている。

ただ、言葉だけでは、市民・県民もなかなかイメージがわかないため、ある程度の方向性を取りまとめたら、それに沿った単純なイメージ図のようなものが作成できないかと考えている。大まかなゾーニングなどでかまわないと考えている。

2点目の制約条件について、ヘリポートの位置については、もう既にそれなりの公共投資をして、ヘ

リポートの位置を定めて実際に整備を進めているので、現行の整備計画を前提に考えていただければと思う。

3点目の他の跡地との整合性については、旧広島市民球場跡地では現在3つの機能について議論をされているところであり、他の跡地のことも、ある程度念頭に置いて議論していただければと思う。

戸田座長

他の検討との調整も大事なのだが、県や市が広島都市圏をどのような形で整備していくのかという方向性と整合を取った形で、それぞれの跡地の役割、機能の配置をどうするかということも大事だと思う。

今現在、広島都市圏の整備をどのような形で行っていくかということについて、どのように認識しているか、確認させてほしい。参考資料の説明で結構である。

事務局（広島県）

（参考資料の5～8ページに沿って説明）

戸田座長

広島市はどのように考えているか、説明してほしい。

事務局（広島市）

冒頭でも説明したが、昨年12月、「世界に誇れる『まち』の実現に向けて～市政推進に当たっての基本コンセプト～」を公表した。

その中で、少子・高齢化、低成長経済といった状況下における都市経営の基本は、都市機能の拡散の抑制と、その適切な配置による集約型都市構造の形成を図る。具体的には、都心においては、活力と求心力の源となるような機能を集中し、充実・強化を図る一方、それ以外の地域においては、地域ごとの特性を踏まえつつ、既に集積した機能のうち、生かすべきものを選択、強化を図りながら、これらを有機的に連携させていくとしている。

中でも、都心については、広島の陸の玄関である広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を都心の東西の「核」と位置付け、それぞれが活力とにぎわいのエンジンを持ち、相互に刺激し高め合うような「楕円形の都心づくり」を推進していく。また、二葉の里地区や旧広島市民球場跡地、広島大学本部跡地、そしてこの広島西飛行場の跡地をはじめとした大規模未利用地については、将来をしっかりと見据えた活用方策を検討していく。このような考え方に立って、まちづくりを進めていこうと考えている。

戸田座長

広島市では、紙屋町・八丁堀地区と広島駅周辺地区を「楕円形の都心」と言われたが、そこに周辺から人が来る、また行く、楽しむ、そういう中枢性を強化していこうという方向性だ。それとも関連して、周辺の各地域の整備も行っていく。そのひとつがこの広島西飛行場跡地でもあるという位置付けである。

県も市もこのように都市整備を進めていくという方向性を持っている。その流れに沿い、西飛行場跡地をいかに活用していくか。

福田委員

例えば、西風新都でも、企業誘致をしながらやっていこうとしているが、またこちらでもというように、市内にいくつも散らばっているように見える。他の事業も同時並行で動いているので、順番どおり

にはならないと思う。あちらで議論するときは、あちらの立場でいろいろ話が出てくると思う。その調整がよくわからない。

参考資料の11ページに西風新都も書かれているが、そこはそこでまた見直しをし、いかに企業誘致をしていくかという議論が恐らくされていると想像するが、またこちらでも雇用を創出しますよという話になる。ここににぎわいを創出するとあるが、都心にもにぎわいを創出する必要も議論されている。広島ぐらいの都市になれば全部必要だと言われればそうかもしれないが、互いの計画同士が引っ張り合いにならないようにしなければならぬという思いがある。これは質問ではなく感想だ。

もう1点。谷村委員の質問に関連するが、この3月までにビジョンを作るとのことだが、その後が見えない。もう少し長いスパンで見たときに、ビジョンができた後どうなっていくのか。その中で、今回の検討がどういう位置付けになるのか。例えば、広大跡地にしても旧市民球場にしても、長く議論が続いてきており、意見の盛り上がりという点ではよいことだとも思うが、その経験を踏まえながらこの跡地利用の検討を行うのだから、今後このビジョンを作った後、何年ぐらいで何をどうしていこうかという計画があれば、もう少しこの検討会での検討内容の役割がわかるのではないか。

例えば、市民の意見の熟度や盛り上がりを考えると、この飛行場跡地にもこれからいろいろな意見が出てくると思う。そのときに、その場その場で対応するということになると時間がかかる。地元の方々には早くしてほしいという意向もある。この3月までだけではない進め方の計画があるのではないか。

事務局

今回取りまとめる活用ビジョンについては、大きな方向性と言ったが、簡単に言うとマスタープランに近いものをイメージしている。ここで大きな方向性が示され、それを具体的に肉付けしていくのは来年度以降になる。来年度以降どうしていくかについては、広島県と広島市の間で協議していくことになるが、ほとんどが広島県の土地といった事情もあるので、広島市も協力しながら、具体的な計画づくりを行っていく形になるだろうと思う。

具体的な工程はの中で練られていくと思うが、大まかな工程はこのビジョンの取りまとめの段階で議論していただければと思う。

橋川委員

皆さんのいうことはそのとおりだと思う。

例えば、以前、広島西飛行場のあり方検討委員会という会議で、私たちは西飛行場の存続という結論を出した。採算や雇用の面を検討し、広島市、県にとって西飛行場は将来非常に大切だという結論に至り、市に答申した。それを受け、市が市議会に提案し、その結果否決になった。そして西飛行場は廃港になった。

今回、私たちが意見を出してこうしてくれということが、絵に描いたもちで終わらないように、実現の方向で各委員は取り組んでいると思うので、市や県には私たちの意見を尊重してもらいたい。

戸田座長

大事な意見だ。現状として、どのような課題があるのか、それを前提にして意見交換をしましょう。過去の経緯を払拭するのは難しいとしても、今どのような取組をしなければいけないかということだ。少しでも前向きに進めるという姿勢が重要である。

事務局に言葉を返すようだが、「県は市に協力する」「市は県に協力する」という言葉が出たと思うが、そうではない。一緒に協力する、協働するという姿勢でいてください。でないと実現できない。資料に

おいても、県有地になったり県と市の土地になったり、そういうところがちらちら見えるが、そういうところをなくしてください。でないと本当の議論ができない。だからこういう検討の場ができるようになったんですから、事務局に苦言を呈するわけではないが、よろしくお願いします。

松浦（靖）委員

一つの大きなテーマとして「雇用の創出」というのがあるが、打ち出の小づちがあるわけではなく、世の中には、遊休地や空き地は無数にある中で、ここだけが雇用を創出できるわけではない。そういうところとどう差別化するか、ここならではのものを模索しなければならないと思う。ビジョンであり、マスタープランであるから、何らかの方向性を出さなければいけないだろうと思う。それが1点。

それから、地域住民の方の意見は当然一番大切な話だが、隣接する企業や学校、商業施設等の思いをどう生かしていくのか。先週久しぶりにマリナホップに行ったが、秋山委員の言うとおりの、確かにくねくねした道で、想像以上に渋滞していた。先週は久しぶりにマリナホップの店も大繁盛だと店の方が言っていたが、それには宮島航路も影響していると思った。このように現場で見ると、本当にここに着色してある場所だけのことで、あとは所与の条件として考えてよいのかと。マスタープランとはいえ、その辺の調整とか、その方々の思いをどこまで取り入れるのか。

道路の問題ももちろんあるが、総合的に、将来的なことも含めて、もっと広い面積で考えなければいけないのではないと思う。現場に行くといろいろな思いがする。一度あの跡地（滑走路）の中に立たせてもらえたら、こんなことがあるのかなという考えが浮かんでくるのではないかな。そんなことをしている時間はないかもしれないが、そんな企画をしていただくとありがたい。これが2点目。

最後になるが、資料を見ると、「中四国」が出てきたり、「中国地方」が出てきたり、統一感がない。「中国地方」というくらいで始めてはどうか。

戸田座長

今後の調査や検討に当たっての留意事項を指摘いただいた。

それでは、予定されている時間があるので、全員に一言発言をお願いしたい。山田委員、何かありませんか。

山田委員

参考資料の11ページ。四つの大規模未利用地の活用についていろいろ書かれているのだが、それぞれの地域特性に合わせて、機能が重ならないように分担していくことはとても重要だろうと思っている。

その中で、旧市民球場や広島大学跡地、二葉の里にはない西飛行場跡地の特性は何かと言うと、すぐに思い浮かぶのは「ウォーターフロント」という感じがする。そこで、意見の中にここにアミューズメント機能をもってくるという話があったが、そのモデルになるのはやはりマリナホップの現状かなという感じがする。

私も、つい最近マリナホップに行ってきた。数年前のマリナホップは、確かに余り人が入っていなかったが、数年ぶりに行ってびっくりした。駐車場が無料なので、宮島口の渋滞を避けるために、車をマリナホップにおいて、そこから高速艇で宮島に渡っていられる。一昨日のデータを聞いたが、1日350人、ピークだったとの話があった。広島は「水の都ひろしま」とも言われるし、県では「瀬戸内海の道構想」などとも言われているので、そういった構想の具体案をここに乗せることができないだろうと思った。何ができるかはまだ頭に浮かんでいないが、そういう他の未利用地にはない特性を十分生かしたやり方をしていかなければいけないと思う。

その時に少し心配になるのが、現在のマリーナホップの状況である。これがどうなっているのか。

それから、港湾計画。先ほど上位計画の話があったが、この観音地区は広島港の港湾計画の一部だと思う。そこで、港湾計画の中で、観音地区がどういう機能を持っているものとされているのかということも教えていただきたい。

戸田座長

その件については、次回の検討会の資料として調整をお願いします。

キーワードとして、「ウォーターフロント」という立地特性を指摘いただいた。

続いて、松浦委員、お願いします。

松浦（弘）委員

この40ヘクタールという土地をいかに使っていくか。必要にして十分な利用をしていかなければならないと思う。

方向性を出すことが基本だということだが、各機能について最低限どういった大きさのものがいいのかという方向でも見ていかないといけない。行く先だけ見てみると、それが実現できるかどうかということになるので、そういう見方もしていかなないといけないと思う。

スポーツ・レクリエーション機能や広域防災機能として見た場合、最低限どうなのか。もしかすると、それが40ヘクタールの中でおさまるということになるのかもしれないので、必要性和十分条件が両方ともかなうような形の検討を進めていかなければならないと思う。

戸田座長

中山委員、お願いします。

中山委員

参考資料の11ページ。4つの大規模未利用地について、今回、広島市で検討され、西飛行場については、たたき台ということで、「スポーツ・レクリエーション機能」、「広域防災機能」、「新たな雇用を創出する機能」という3つの機能が示されている。

県には二つ立場がある。一つはこの土地を使って、広島都市圏なり、広島県、中国地方に波及効果のある有効活用をしたいということ。そしてもう一つは、土地の8割を持っている地主であるという側面である。その二つの側面を踏まえた上で、検討をしていきたいと思っている。

県全体で見て、では何に使うかというまとまった意見が今あるわけではないので、是非この検討会の場で幅広く議論していただければと考えている。

広島市で作られたこの3つの機能のたたき台を見ると、スポーツの面で言えば、広島高速3号を隔てて北側に県営総合グラウンドがあるし、レクリエーション面では、先ほどから話題に出ているマリーナホップ。これも実は県有地で、定期借地で貸しているが、既に経営者が3代目になっており、経営状況が非常に厳しい。それに相乗効果を与えるようなレクリエーション施設というのも一つの方向性だと思う。

「広域防災機能」も、ウォーターフロントで海に近いということもあるし、ヘリポートがあるということで、防災機能もある。

そして、「新たな雇用を創出する機能」だが、これも方向性としては十分あるのだが、現実的に、今、日本の空洞化の中でどういう企業が立地できるかというのは、今後厳しい面もあるかなと思う。

この検討会で（参考資料の11ページを）たたき台として検討していただく中で、例えば県議会で、

住居系のスマート・シティのような考え方はできないのかという質問があったが、なぜ住居系がだめなのかとか、なぜ商業系がだめなのかなど、出ていない理由、適さない理由というものも整理していく必要があるのかと思う。

秋山委員

だめなのか。

中山委員

いや、だめなことではない。それも十分、これから検討していく必要があると思うが、例えば、道路の問題もあるし、上下水道はどうなのかなど、基本インフラがどうかという検討がないと、検討しにくいという気もするので、時間が無いが、ある程度検討をしていく必要があると思っている。

戸田座長

西岡委員、お願いします。

西岡委員

次回につながるたくさんのヒントをいただけた。1、2点、事務局からの回答に補足をしたい。

まず、福田委員から、これだけいろいろ並行して開発計画があつて、これらの全体調整がどうなっているのかという指摘があつた。

4つの大規模未利用地の活用方策については、具体的に動いているものと、これから進めるものなどがあるが、この西飛行場跡地については、この検討会での議論を受けて、年度内に一定の方向性を出していきたいと思っている。

それと西風新都との関係はどうなっているのかという問い合わせであつた。西風新都も、実は今年度末を目途に全体計画の見直しをしているが、都市的な性格が全く違う。同じく業務系を立地するとか、産業を導入するとか言っても、デルタ部の大規模未利用地で立地すべきものと、西風新都で立地すべきものとは、おのずから性格が異なるだろうと思っているので、その点での引き合いというか、混乱は起きないのではないかとと思っている。

それから、「中四国」という用語について松浦（靖）委員から指摘があつた。

確かにそういう面もあるが、先ほど事務局からも話があつたが、昨年12月に公表した「市政推進に当たっての基本コンセプト」のキーワードとして、「中四国地方の発展を^{けん}牽引する」という言葉を使っている。未来を見据えた広島市のまちづくりの立ち位置を確認するための言葉であり、「中四国」という言葉が今後も事務局の文章に出てくるとも思うが、了承いただきたい。

戸田座長

予定の時間がそろそろ来ている。議論は尽きないと思うが、私からも発言したい。

（事務局には）今日いただいた多くの意見を整理してほしい。それと併せて、次回までに、どのような資料を調べてほしいという要望もあつたので、準備を進めてほしい。また、今後4回のプロセス表を用意してほしい。

私個人の懸念として、いろいろな機能を全て盛り込むと、この西飛行場跡地はバラバラになってしまう。せっかくまとまったこの大きな土地を、そういう姿で利用していいかどうか。これは一つの大きな論点だと思うので、次回以降、議論いただきたい。まとまった土地であるということも地域特性である。

それから、県と広島市における都市についての方向性を説明してもらったが、この跡地についての位置付けは必ずしも明確ではなく、空白になっている。それを踏まえると、現行の都市計画や、都市圏の計画などに大きな影響も及ぼすという場でもある。その点を改めて認識したいと思う。

次回以降、きちんとプロセス管理をしながら、意見交換、検討を進めることにしたいと思う。
事務局から何かあれば、願います。

事務局

多くの貴重な意見をいただき、ありがとうございました。

追加の意見や資料に関して要望があれば、今月末までに事務局に連絡をいただきたい。

次回の会議では、引き続き、跡地活用の基本的な考え方等について検討していただければと思う。次回の日程については、12月の中旬から下旬ぐらいの開催を考えているが、改めて連絡する。

戸田座長

これをもって、第1回広島西飛行場跡地活用検討会を閉会する。

ありがとうございました。